1　未然防止の進め方

観点	取組の視点	主たる取組
未然防止	全ての児童生徒	集団指導
初期対応	兆しの見えた児童生徒	個別支援
初期対応	前年度の不登校児童生徒	個別支援
自立支援	不登校を理由に欠席30日以上の児童生徒	個別支援

不登校数を減らすには新たな不登校を抑制する「未然防止」の取組が必要不可欠です。

平成２８年度　竹鼻中学校と中央中学校では新規不登校数が減少

○「居場所づくり」と「絆づくり」

すべての児童生徒の「心の居場所」となる学校 ―そのために→ 教職員が、児童生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所を提供する【安心安全な学校づくり】

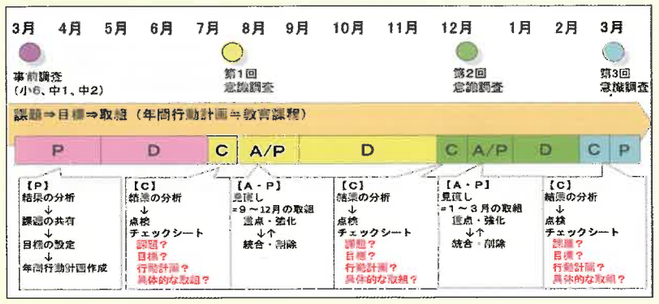
学級や学校をどの児童生徒にとっても落ち着ける場所にする

すべての児童生徒の「絆づくりの場」となる学校 ―そのために→ 児童生徒が、主体的に取り組む活動を通し、自らが「絆」を感じ取り、結んでいく【場と機会の設定】

全ての児童生徒が活躍し、互いが認め合える場面を実現する

居場所づくりと絆づくりを意識・区別しあらゆる教育活動の場においてバランスよく取り組みます。

○未然防止のための生徒指導のＰＤＣＡサイクル



- プランを立てる前にまず実態把握。実態を踏まえて教職員全員でプランを立て、全員で実行し、その結果を学年や学年部の教職員全員で点検し取組を見直します。
- 年間３回繰り返します。

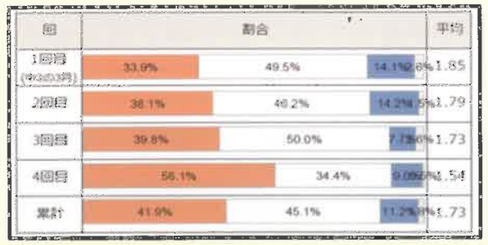
○意識調査

意識調査用紙

意識調査は次の８項目について「１あてはまる」「２どちらかといえばあてはまる」「３どちらかといえばあてはまらない」「４あてはまらない」のいずれになるか調査をします。

ア　学校が楽しい	イ　みんなで何かをするのは楽しい
ウ　授業に主体的に取り組んでいる	エ　授業がよくわかる
オ　叩かれたり、けられたり、強く押されたりした（暴力を受けた）	
カ　暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられた	
キ　叩いたり、けったり、強く押したりした（暴力をふるった）	
ク　暴力ではないが、いじわるをしたり、イヤな思いをさせた	

○意識調査の活用方法



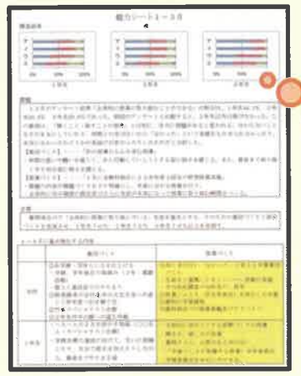
集計結果の分析

ひとくくりで「みんな」と呼ばれがちな児童生徒に思いを馳せます。

- ３月（事前調査）、７月（第１回）、１２月（第２回）の意識調査の結果について、課題分析、目標設定、行動計画の策定を行います。３回繰り返すことにより職員の意識の向上を図ります。
- 意識調査の評価の「１あてはまる」に着目し、それを増加・維持させるために必要な取組について協議します。**「２どちらかといえばあてはまる」を選んだ児童生徒が「１あてはまる」を選ぶようになるために必要な取組**について考えます。

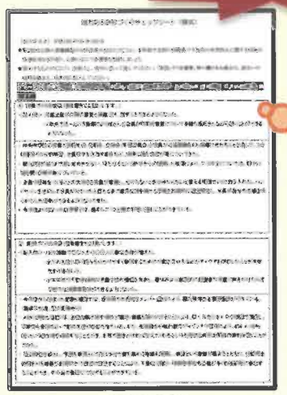
同僚性の向上

○魅力シート（計画表）と点検用紙



魅力シート（計画表）

結果分析に基づいて課題分析、目標設定、行動計画の策定



点検用紙

居場所づくりと絆づくりのバランスを熟慮

- ３月（事前調査）、７月（第１回）、１２月（第２回）の意識調査の結果分析に基づいてそれぞれ魅力シート（計画表）を作成し、課題分析、目標設定、行動計画の策定を行います。３回繰り返すことにより職員の意識の向上を図ります。
- 点検用紙は、意識調査の結果を受け、もし期待されるような変化が見られなければ、計画や実行の問題点について議論し、その内容を共有するために用います。期待された変化があれば、何が効果を上げたのか共有し、今後の取組に生かします。

平成２９年度の課題

1　各学校区の実態にあった小・中連携、小・小連携を進め、魅力ある学校づくりをすること。
「みんな」とよばれがちな児童生徒への浸透度の高い取組をすること（ほめるタネをまく等参照）

2　未然防止の取組に対する職員の同僚性 100%をめざすこと。

未然防止のキーワード

1 魅力ある学校とは？（児童生徒、教師、保護者、地域の学校として）
2 PDCA サイクル（発達段階を意識して）
3 授業づくり（つけたい力、ねらい、課題、授業の出口、評価の明確化、学び方、学力をつける等）
4 集団づくり（児童生徒主体、規律、SEL やアンケートを生かす等）
5 小・中連携、小・小連携（無理なく、無駄なく、むらなく）
6 よさ（具体）を認める、ほめる